



TOMORROW | Taiza Studio

2854 Taiza Tangocho Kyotango Kyoto 6270201
tomorrowfield.org

報道関係者 各位
2023年7月

PRESS RELEASE

ECHO あしたの畑 — 丹後・城崎

2023年10月7日[土] — 11月26日[日]



「ECHO あしたの畑—丹後・城崎」写真：鈴木心、デザイン：田中義久

OVERVIEW

- 名称 ECHO あしたの畑—丹後・城崎
- 会期 2023年10月7日（土）—11月26日（日）
- 会場 間人スタジオ、竹野・斎宮神社、丹後古代の里資料館、道の駅てんきてんき丹後、城崎温泉三木屋
世 | SEI
- 主催 NPO法人TOMORROW、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
- 共催（丹後古代の里資料館） 京丹後市教育委員会
- 後援 海の京都DMO、京丹後市、京丹後市教育委員会、京都府、公益社団法人京都府観光連盟
- 委託 令和5年度日本博2.0事業（委託型）

THEME

食とアートの祭典「ECHO あしたの畑―丹後・城崎」の2023年のテーマは3つ。

かつて丹（辰砂）を生み出してきた地域である丹後の歴史に着目したアート作品、豊かな食材と丹後ちりめんを主とする産業を革新する試み、そして、次世代との共同で取り組む土地に根ざす新たなアートの提案です。

Introducing Shu: Vermillion in Japan and Next Generation Culture Zone

古代日本において辰砂は丹と呼ばれ、あしたの畑の活動拠点である丹後町、古代の丹波国の丹は辰砂（朱砂）が採れたことに由来します。この地域では、朱砂が採れ、古墳や土器に朱が塗られ、日本茜で染める朱の織物が作られていました。

本展では、アート、工芸、建築の次世代の才能と丹後の土地が持つ固有性が混じり合うアートプロジェクトが展開します。

会場 | 竹野・斎宮神社、丹後古代の里資料館、世 | SEI



Image1 : 竹野湯-湯湖と古墳(5世紀) 画像提供:京丹後市教育委員会

「Field of Stars」

テレジータ・フェルナンデス / 中川周士 / サイプレス・フェルナンデス = ダウンズ / 橋詰隼弥・若松晃平 (TOMORROW)

アーティスト、テレジータ・フェルナンデスと木工職人である中川周士が、次世代を担う建築チーム―TOMORROWの橋詰隼弥、若松晃平、そして芸術大学在学中のサイプレス・フェルナンデス=ダウンズとのアート・工芸・建築をつなぐ協働プロジェクトが進行中。この秋、プロジェクトの第一弾を初公開します。



Image2 : 間人集落と現在の竹野湯

「A Little Prayer」

桑田卓郎 / 田中義久 / 新里明士 / 西沢立衛

古墳が5,000基あるといわれる丹後地方。これからの生活や墓地について思考することは、芸術の根源を巡る想像の旅でもあります。自然の中で芸術の意味を問い、「祈り」と結びつくことを願う、アート・工芸・建築からの視点を散策しながら体感する作品群です。



Image3 : 「納屋」
監修：西沢立衛建築設計事務所

「紙の本」

幅允孝

人を取り巻く日々の流れが加速するなか、社会のシステムやテクノロジーが求める速度から取返して鈍くあること。人と本の距離が少しずつ離れてきてしまっている昨今、丹後の歴史、自然、そして古代日本に想いを馳せる本に身を任せる時間と空間を提案します。



Image4 : 「ライブラリー」 幅允孝

「丹」

AAWAA(COSMIC WONDER)

丹後古代の里資料館の企画展示室を会場に、かつてこの地で生き、丹波国を築いた人の眼の痕跡を見つめ、古代と現代をつなげる試み、丹後・三坂神社墳墓群から出土した朱の土・辰砂から触発された織物による空間を生み出します。



Image5: 「丹」 AAWAA

「Taiza, Tango 2023」

池澤夏樹 / 畠山直哉

写真家・畠山直哉が京都・京丹後を訪れ出会った自然と風景の写真による記録「Taiza, Tango」より、作品『立岩』を展示。2023年、詩人の池澤夏樹が畠山と旅し、書き下ろした詩を発表、展示します。丹後の豊かな歴史と自然を文学と写真で奏でる試みです。



Image6: 「立岩」 畠山直哉

Local, New and Fermented

国内外で活躍する料理人・坂本健 (cenci) と吉岡幸宣 (縄屋) が、地域の食材を活用し、身体にも美味しく地元のあらたなソウルフードとなるようなレシピを監修します。「古代とあしたのレストラン」と題して、テキスタイルデザイナー・安東陽子が、TOMORROWの次世代建築チームと共に開発する建材としての丹後織物による空間で会期中限定メニューをお楽しみいただけます。



Image7: 「古代とあしたのレストラン」 試食会
Image8: 左から坂本健 (cenci) と吉岡幸宣 (縄屋)

会場 | 道の駅てんきてんき丹後

「古代とあしたのレストラン」

食: 坂本健 (cenci) / 吉岡幸宣 (縄屋)

空間: 安東陽子 / 橋詰隼弥・清岡鈴・若松晃平 (TOMORROW)

関連イベント

「謙ディナー」10月6日 [金] ・7日 [土]

2023年「アジアのベストレストラン50」に選出されたcenciとゴ・エ・ミヨ2022掲載の縄屋、2店舗の初コラボレーションとなる二夜限りのフルコースディナー (各日定員11名) が実現。ご参加の方には、新里明士が「あしたの畑窯」で焼く、新作の器をプレゼント。



Image9: 縄屋 (上) とcenci (下) による試作

「あしたの台所」10月22日 [日]

天橋立で知られる宮津出身であり、新鮮な食材とスパイスを巧みに組み合わせた料理を手がける「ブランカ」のシェフ・吉岡哲生が、「目にも口にも“美味しい”食事はどのように作られるか？」を小学生と考える料理ワークショップ。

Regenerative Art - Next Generation Craft Architecture

京丹後・間人の街並みに佇む築100年の民家が、次世代の感性と共に、木工・陶磁器・ガラス・紙・左官の伝統を引き継ぐ作家たちと3年をかけて作品化されます。地域固有の自然素材、水と光の資源にフォーカスした、これからの資源を考える生活空間を提案します。



Image10 (左) : 「木庇」中川周士

Image11 (右) : 「土壁」新里明士, 「照明」佐藤聡, 「間人紙」嘉戸浩・田中義久

会場 | 間人スタジオ、三木屋

「自然の部屋」

嘉戸浩 / 佐藤聡 / 中川周士 / 新里明士

職人の技を駆使しながら、自然素材で作るこれからの資源を考える試みを通し、次世代の感性に響く生活空間。新しく生み出すデザインやかたち、スタイルの模範となる場を提供し、やがて地域のスタンダードとして普及する地域モデルとなるべく、生活空間における光と水との新しい共存のあり方を提案します。



Image12 : 「木の部屋」中川周士

「建築と場所の歴史と対話する陶芸と彫刻」

須田悦弘 / 新里明士

志賀直哉が逗留した築300年を超える旅館の客室では、現代美術家・須田悦弘が志賀の著書「朝顔」から着想を得た彫刻を、陶磁器作家・新里明士は、改修を終えた新しい客室のために制作した新作を発表します。彫刻と陶芸の美の空間をお楽しみください。



Image13 : 「朝顔」須田悦弘

関連イベント

「あしたの工房」11月11日 [土]

国内外で活躍する木工作家・中川周士によるワークショップ。

日々の暮らしのすぐ側にある箸や匙、木皿や木桶について、出来上がる過程を学びながら作る工房体験。



Image14 : 「箸と匙」中川周士

あしたの畑SHOP

ECHO展に合わせて、参加クリエイターによる限定商品を販売します。京丹後の地と歴史からのインスピレーションが詰まった、日々の暮らしを考えるあしたの畑オリジナルの品々です。

あしたの畑SHOP | <https://tomorrowfield.stores.jp/>



Image15 : 「四つ碗」新里明士

CREATORS

AAWAA (COSMIC WONDER) | アート・衣

安東 陽子 | テキスタイル

池澤 夏樹 | 文学

嘉戸 浩 (かみ添) | 唐紙

桑田 卓郎 | 陶器

坂本 健 (cenci) | 食

佐藤 聡 (PONTE) | ガラス

下田 理恵 | 記録・デザイン

鈴木 心 | 記録・映像

須田 悦弘 | 彫刻

田中 義久 | アート・デザイン

中川 周士 (中川木工芸) | 木工

新里 明士 | 陶磁器

西沢 立衛 | 建築

畠山 直哉 | 写真

幅 允孝 (BACH) | 本

テレジータ・フェルナンデス | アート

森川 昇 | 記録・写真

LEO | アート・箏

サムソン・ヤン | アート

吉岡 哲生 (ブランカ) | 食

吉岡 幸宣 (縄屋) | 食

PERFORMANCE

12月2日 [土] サムソン・ヤン (作曲) / LEO (箏)

2500年前には中国でその原型が生まれ、神聖な楽器として祭祀などで用いらてきた箏。領域横断的な活動を展開する作曲家・アーティスト、サムソン・ヤン (楊嘉輝)、ジャンルを越境する演奏で注目される箏曲家・アーティスト、LEOが、間人の大地、海、風景とコラボレーションして生み出す、1日限りのサイトスペシフィック・パフォーマンス。

TOURS

「ECHO あしたの畑―丹後・城崎」の会場が位置する城崎から天橋立は、かつて一つの国・丹波 (たにわ) 国でした。会期中、ユネスコ世界ジオパークにも認定されている古代丹波国の豊かな文化、自然と共に広がるアートプロジェクトをご堪能いただけるツアーを実施します。

丹後半島・城崎温泉を巡る2泊3日特別コース

スタッフによるガイドで美しい自然、歴史文化、食を満喫するツアー。

11月3日 [金・祝] ―5日 [日]

丹後半島・城崎温泉を巡る1泊2日コース

ECHO展をより深く堪能する、歴史・遺跡周囲の神社や古墳を巡るツアー。

1. 10月20日 [金] ―21日 [土]

2. 11月18日 [土] ―19日 [日]

日帰り展示周遊コース

丹後・城崎エリアで展開するECHOプロジェクトを日帰りで巡るツアー。

1. 10月29日 [日]

2. 11月13日 [月]



Image16: 袖志の棚田



Image17: 元伊勢内宮皇大神社

PRESS

一般公開に先立ち、各プロジェクトをガイド付きバスツアーでご案内します。

日程 | 2023年10月5日 [木]

会場 | 間人スタジオ、竹野・斎宮神社、丹後古代の里資料館、道の駅てんきてんき丹後、城崎温泉三木屋

○ タイムスケジュール

09:30	京都駅集合
10:00-12:00	ツアーバスにて間人へ移動
12:00-13:00	道の駅てんきてんき丹後 (昼食)
13:00-14:00	竹野神社・丹後古代の里資料館
14:00-15:00	間人スタジオ
16:00-17:00	城崎温泉 三木屋
17:00-17:30	三木屋から但馬空港まで送迎
17:30-18:30	但馬空港から竹野神社まで送迎

ツアーバスにてご案内いたします。

○ ツアー後の関東・関西方面へのアクセス

[関東方面] JAL

[関西方面] 特急こうのとり

18:00-18:35 但馬空港-伊丹空港

18:53-21:44 城崎温泉駅-新大阪駅

19:30-20:40 伊丹空港-羽田空港

○ お申し込み先 (プレスツアーは、予約制となります。)

「プレスツアー参加申込書」に必要事項をご記入の上、メール (info@tomorrow-jp.org) にてお送りください。

お申し込み締切 | 2023年7月31日 [月]

IMAGE REQUEST

画像貸出

本リリースに掲載の画像は、媒体掲載にご使用いただけます。

掲載ご希望の画像をお選びいただき、「画像申込書」をメール (info@tomorrow-jp.org) にてお送りください。

INFO

お問い合わせ・お申し込み先

ECHO事務局 TOMORROW (担当：岡本)

E-mail: info@tomorrow-jp.org



WEB
https://echo-tomorrowfield.com



JAPAN CULTURAL EXPO 2023



ECHO あしたの畑－丹後・城崎

プレスツアー 参加申込書

申込者	団体名		担当者名	
	住所	〒		
	TEL			
	E-mail			
取材人数	人			
媒体	種別	テレビ 雑誌 その他（	ラジオ フリーペーパー	新聞 Web ）
	媒体・番組名			
発行/放映日	年	月	日（ ）	時 分 ～ 時 分
取材内容	動画撮影	写真撮影	インタビュー	その他（ ）
備考	（特殊な機材の持ち込み、お客様が映る可能性、無人の状態での撮影など）			

注意事項

- ・企画書など掲載媒体・取材内容がわかる書類の提出をお願いいたします。
- ・掲載、放映、放送等にあたっては、指定クレジットを明記してください。
- ・撮影写真、映像、広報写真等は、目的外の使用はお控えください。

お問い合わせ・お申し込み先

ECHO事務局／TOMORROW(担当:岡本) E-mail:info@tomorrow-jp.org / www.tomorrowfield.org



ECHO あしたの畑－丹後・城崎

画像貸出申込書

申込者	団体名		担当者名					
	住所	〒						
	TEL		E-mail					
希望画像	画像番号		画像番号					
	画像番号		画像番号					
	画像番号		画像番号					
	希望画像 サイズ・解像度							
媒体	種別	テレビ Web	新聞 その他（	雑誌 フリーペーパー				
	媒体・番組名							
発行/放映日	年	月	日（ ）	時	分	～	時	分
掲載サイズ	全ページ	1/2ページ	1/4ページ	1/4ページ以下	A4			
備考								

注意事項

- ・貸出画像一覧に記載の通り、クレジットを明記ください。
- ・貸出画像の利用は、当該画像に係る企画またはTOMORROWに関する記事掲載の目的に限ります。
- ・校正の段階で原稿をTOMORROW事務局(info@tomorrow-jp.org)にお送りください。

お問い合わせ・お申し込み先

ECHO事務局／TOMORROW(担当:岡本) E-mail:info@tomorrow-jp.org / www.tomorrowfield.org